

社会的取り組みの状況 1

Social Performance

労働安全衛生・雇用・人権保護への取り組み

○雇用

研究職員の採用にあたっては、テニユア・トラック制により、任期制の一層の活用など雇用形態の多様化を図りつつ、必要な人材を確保しています。女性研究者の採用に関しては、応募者に占める女性割合と、採用者に占める女性割合とでかい離が生じないように努めています。2013年度の採用者数は、パーマネント研究職員男性3名、女性1名、任期付研究職員男性2名でした。

○安全衛生活動

職員の安全および健康を確保し、快適な職場環境の形成を促進するため、以下の活動を実施しています。

1. 法の遵守および自主基準の設定と徹底
2. 安全衛生委員会の開催
3. 巡視活動による危険・有害要因の排除
4. 作業環境測定および空気環境測定の定期的な実施
5. 健康診断の定期実施と受診の徹底
6. メンタルヘルスクエアや各種ハラスメント防止対策の恒常的な実施
7. 安全衛生に関する研修会の実施

○安全巡視の取り組み

産業医、衛生管理者、安全管理責任者、安全管理室長および安全衛生委員会委員による職場巡視を定期的実施し、巡視記録を作成・保管するとともに、職場における安全・衛生面の問題点を明らかにし、指導を行うことにより、快適な職場環境の形成と事故の予防措置を図っています。

2013年度は、研究本館耐震改修工事を実施するとともに、研究室・実験室等の書庫・実験器具等の転



研究本館耐震改修工事

倒防止等耐震対策を引き続き実施しました。

○健康管理の取り組み

一般定期健康診断および特殊健康診断を定期的実施し、職員の健康障害や疾病の早期発見に努めています。また、健康診断実施後の事後措置として、有所見者に対して産業医との面談の実施および書面通知による定期的なフォローを行っています。

産業医、女性研究者支援事業を活用した助産師や外部カウンセラーによる健康相談も随時受け付け、職員の健康の保持増進に努めています。

○AEDの設置及び救命講習会の開催

心筋梗塞や脳卒中などにより、心臓と呼吸が突然止まった者に応急手当をするため、これまで研究本館のみの設置であったAEDを2013年度より新たに研究支援室にも設置しました。また、つくば市消防職員による救命講習会を継続的に実施しています。

○メンタルヘルスへの取り組み

農林水産省共済組合等で実施しているメンタルヘルス事業を活用するとともに、農環研独自のメンタルヘルス相談も実施しています。

1. 農環研メンタルヘルス相談

職場や仕事に対する孤独や不安な気持ち、家庭や子供について、自らの生き方について等日頃抱いている思いや悩みを話し、心身共に充実して仕事に取り組めるように、毎月1回農環研内で外部カウンセラーによるメンタルヘルス相談をおこなっています。また、産業医・助産師による健康相談においてもメンタルヘルスに関する相談が可能となっています。

2. 農林水産省共済組合等メンタルヘルス事業

(1)メンタルヘルス相談

農林水産技術会議事務局筑波事務所において、職員が抱える悩み事を相談することで精神的なストレス・疲れを癒し、心身のリフレッシュを図り、普段から心の健康状態を良好に保つための対策として、毎月2回定期的に心療内科医が実施しています。

(2)カウンセリング

外部医療機関の医師による直接相談を農林水産省共済組合筑波支部で実施しています。

社会的取り組みの状況 2

Social Performance

(3) 無料電話健康相談

職員の健康・疾病・メンタルヘルスなどのあらゆる健康に関する悩みについて、保健師・看護師・カウンセラーなどの専門スタッフが答えてくれる無料電話相談を農林水産省共済組合で実施しています。

(4) WEB健康相談

農林水産省共済組合専用の電子メールを利用した相談窓口で、健康問題等についての悩みを受付けています。

(5) メンタルヘルス講演会

農林水産技術会議事務局筑波事務所が年1回実施している外部講師による講演会へ職員の参加を呼びかけています。

○ハラスメント防止の取り組み

ハラスメント相談環境の改善方策として2008年に「目安箱」を設置し、2010年には、苦情相談専用メールアドレスを設置しました。ハラスメント防止などに関しては、規程類を整備し、相談員が苦情相談に迅速に対応する体制を整えています。また、苦情相談員会議を実施し、良好な勤務環境を確保するため、アンケート調査による実態調査を行うとともに、農環研内グループウェアに苦情相談の仕方、相談を受け付けている公的機関を掲載し、防止に努めています。また、所議メンバーを中心としたハラスメントに関する研修、各室等にハラスメント防止のための資料配布、パワハラ、セクハラについてのポスター掲示等、意識啓発活動等を継続的に実施し、未然防止対策に努めています。

○労働災害防止の取り組み

圃場管理のため、大型農機具を使つての作業が少なくありません。また多種類の薬品・ガスなども実験に多く使われているため、研究機関特有の危険・有害要因が、潜在的に数多く存在しています。そのため、「安全はすべてに優先する」をモットーに事故を未然に防止し、健康的な職場環境を実現するための活動を推進するとともに安全衛生に関する研修会を実施しています。

男女共同参画への取り組み

農環研では、2009年度から2011年度まで文部科学省科学技術振興調整費の女性研究者支援モデル育成事業「双方向キャリア形成プログラム 農環研モデル」を実施しました。プログラム終了後の2013年度も、キャリア形成・研究力向上のための支援、出産・育児・介護との両立支援、次世代育成支援の3つの柱を中心に支援メニューを実施し、女性研究者支援・男女共同参画推進を図りました。具体的な取り組みとしては、

- (1) 支援研究員の雇用
- (2) 海外出張支援・英語論文作成支援
- (3) 健康・メンタルヘルス相談窓口の開設
- (4) アウトリーチ活動の実施(出前授業、サイエンスカフェなど)
- (5) メンター交流会、男女共同参画ランチョンセミナー

などを実施しています。

これら女性研究者をメインターゲットとした取り組みの他に、農環研内のメンター制度や論文作成支援制度を活用した若手女性研究者キャリアアップ支援、農環研内の若手表彰制度への積極的な女性研究者の推薦、インターンシップによる女子学生の積極的な受け入れ、等の取り組みを展開しています。こうした様々な取り組みを通じて、農環研に所属する若手とシニアの女性研究者、それぞれの研究キャリアアップの相乗効果を目指すのと同時に、女性研究者の裾野拡大に努めています。

地域および社会に対する貢献

研究の成果や農環研の活動をさまざまなメディアを通じて外部にお知らせするとともに、専門分野を活かして地域や社会に貢献するための活動を行っています。

○シンポジウム・公開セミナー等

2013年度は、農業環境技術研究所創立30周年にあたり、様々な記念研究会、セミナーを開催しました。これらの集大成となる記念シンポジウム「21世紀の農業と環境」では、放射性物質、温室効果ガス、生物多様性、カドミウムについて、農業環境技術研究所設立以来の研究の流れと、最新の研究成果を、一般の参加者に分かりやすく紹介しました。



農業環境技術研究所30周年記念シンポジウム
「21世紀の農業と環境」

このほか、生物多様性の保全における農業の役割、農薬残留リスク低減技術の開発など、さまざまな分野の研究会や公開セミナーを開催し、研究成果の発信や技術普及に努めました。

また、「農環研サイエンスカフェ」を開催し、「歌でわかる“農業と環境”」をテーマに、稲作とともに持ち込まれた外来植物が里山の生態系を形作っているなど、外来生物のもつ意外な側面などを解説しました。また、タイトルにあるとおり、話題の間にオリジナルソングが演奏され、参加者に好評でした。



農環研サイエンスカフェ
「歌でわかる“農業と環境”」

さらに、「農業環境技術公開セミナー in 新潟」を新潟県と共同で開催し、メッシュ気候値の活用や温室効果ガスの発生抑制技術、有機農業と生物多様性についての研究成果を農業関係者や地域市民に紹介しました。

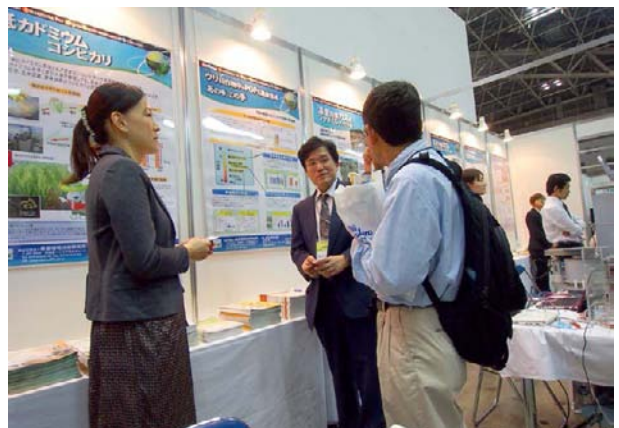


農業環境技術公開セミナー in 新潟

国際的な取り組みでは、農環研が中心となって推進しているモンスーンアジア農業環境研究コンソーシアム(MARCO)のワークショップを開催し、アジアにおける遺伝子組換え食用作物の便益とリスク、持続的農業生態系管理のための環境負荷の評価と削減等について、アジア各国からの参加者と情報・意見を交換し、連携強化の方策を議論しました。

○研究成果の展示

「アグリビジネス創出フェア2013」および「テクノロジー・ショーケース in つくば2013」に参加し、最新の研究開発成果の紹介、機関広報ポスターの展示を行いました。



アグリビジネス創出フェア2013
(農業環境技術研究所の展示ブース)

社会的取り組みの状況 3

Social Performance

○産官学連携による研究成果の活用

研究成果の活用として、特許の取得や企業との共同研究による商品開発にも取り組んでいます。これら研究成果の活用を通して、環境の保全、浄化が進むことが期待されます。

○ウェブサイト

農環研機関公式ウェブサイトを1996年から運用し、研究所の活動や研究の成果などを様々なページで紹介しています。



農環研ウェブサイト(トップページ)
[<http://www.niaes.affrc.go.jp/>]

Web マガジン「農業と環境」を毎月公開し、研究会・セミナーやイベントの開催案内と報告、国際会合への参加報告、研究成果や文献の紹介など、最新の情報を提供しています。

2013年は研究所設立30周年に当たるため、これまでの研究・技術開発の経過や成果を社会的な背景とともに総合的に紹介する記事「農業環境技術研究所の30年：研究の系譜」を、10回にわたって連載しました。

また、公式サイトとは別に、農環研が開発した多数のデータベース・画像情報システムがインターネットで公開されています。2013年度には、選択した農地での土壌炭素の増減をCO₂吸収量として計算する『土壌のCO₂吸収「見える化」サイト』、衛星画像で世界各地の農業環境の変化を簡単に比較できる『“世界の農業環境”閲覧システム』などを新たに公開しました。

○一般公開と見学

4月の科学技術週間に、「未来につなげよう安全な農業と環境」をテーマとして研究所一般公開を開催しました。研究所本館と農業環境インベントリー展示館で「土の中の挙動不審な水を追え!」や「土壌の病気をやっつける水辺の黒い侵略者」など多くの実演・体験展示と「古地図に見るつくば・牛久の環境変化」など2件のミニ講演を行い、農業関係者、主婦、生徒・学生など、700人を超える方に来場いただきました。

また、初めての試みとして、小・中学生を対象とする「のうかんけん夏休み公開」を7月に開催しました。「プラスチック封入標本を作ろう」や、ミニ農村でのオリエンテーリング、ザリガニ釣り、里山解説などを行い、1700人を超える来場者がありました。



のうかんけん夏休み公開
「プラスチック封入標本を作ろう」

農環研の見学・視察を希望する学校や団体・個人に、展示館や研究施設の見学、研究者による研究紹介・講演など、多彩なプログラムによって対応しました。2013年度の一般見学者は1,175名でした。農林水産省関係の研究成果や技術を展示している「食と農の科学館」でも、農環研の研究成果が紹介されています。

○国や国際機関への専門家の派遣等

国、地方公共団体等からの依頼に応じて、各種委員会に専門家の派遣を行いました。また、国際機関等にも積極的に専門家の派遣を行っています。2013年度は、グローバル・リサーチ・アライアンス(GRA)、気候変動に関する政府間パネル(IPCC)などの会合に、のべ20名の研究者を派遣しました。

○技術相談・分析・鑑定への対応

国、地方公共団体、各種団体、大学等からの依頼に応じて、農業と環境にかかわるさまざまな技術相談に対応しています。2013年度は、東京電力福島第一原発事故に際して、昨年に引き続き農林水産省あるいは県からの分析要請を受け、多数の農作物や土壌等の放射性物質濃度の分析を行い、食品安全の確保等に大きく貢献しました。

また、ヨトウ類等、高度な専門的知識が必要とされる他の機関では実施が困難な昆虫の鑑定を行いました。その他、農環研は各分野の技術講習や研修会など、技術の普及や指導の活動を行っています。

○学習・体験型イベント

「つくばちびっ子博士2013」が、子どもたちが科学技術に接する機会としてつくば市などが主催、研究所や大学が協力して、夏休み期間に行われました。農環研は昆虫採集教室を実施し、40名の小・中学生が研究者の指導で昆虫採集と昆虫標本作りを体験しました。



昆虫採集



昆虫標本作り
(つくばちびっ子博士2013)

「つくば科学フェスティバル」は、青少年が楽しみながら科学の楽しさや大切さを学ぶ科学イベントとして、つくば市などが毎年開催しています。農環研は「つ

くばの農業環境 むかしといま」というテーマでブースを出展し、130年前の地図とGIS情報を組み合わせる研究をわかりやすく紹介しました。

「サイエンスキャンプ」は、研究機関が高校生・高等専門学校生を受け入れ、研究者・専門家の指導で実験や実習を行う「科学技術体験合宿プログラム」です。農環研で開催したサマー・サイエンスキャンプには、「土壌中で生活している線虫などの土壌動物を観察してみよう」のコースに10名の高校生が参加して、研究者がどのように農業環境研究に取り組んでいるかを体験しました。



むかしのつくばの環境を画面で見る
(つくば科学フェスティバル2013)



研究者が指導して土壌試料採取
(サマー・サイエンスキャンプ2013)

研究不正防止への取り組み状況

研究倫理に関するガイドラインを定めた「研究活動の不正防止に関する規準」を策定し、不正行為の防止に努めています。動物実験、遺伝子組換え実験および放射性同位元素を用いた実験などに関しては、それぞれ専門の委員会を設置し、関係する法令および諸規程を遵守して行うよう徹底してきました。

しかし、平成26年2月に中国産いねもみを許可を得ていない野外のほ場で栽培していたことが明らかになりました。直ちに農林水産省横浜植物防疫所に

社会的取り組みの状況 4

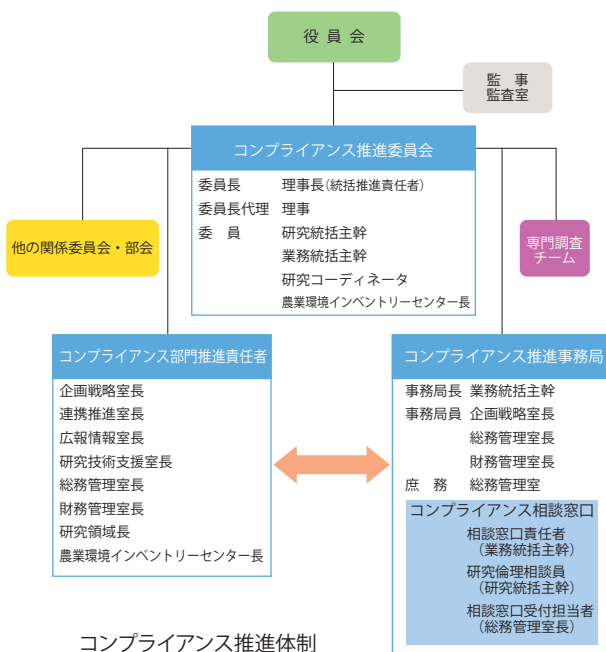
Social Performance

報告を行い、関係研究試料の使用を凍結し、試料を密封の上、移動禁止としました。栽培による国内未発生の病害虫の発生はこれまで確認されていませんが、これを受け、従前の「輸入禁止品等取扱要領」を「輸入禁止品等管理規程」に改正し、また新たに輸入禁止品等利用研究管理委員会を設置し、研究の企画立案段階から使用・保管に至るまで一貫して管理する体制を整備するとともに、職員への教育訓練を実施しました。

また、競争的資金に関する説明会において、研究費不正使用の例を紹介するとともに、利益相反マネジメントについて、利益相反マネジメント委員会において取り組み状況の確認を行うとともに、所議を通じて職員に再周知を図りました。

コンプライアンス推進体制

役職員が農環研の基本理念、行動憲章および環境憲章、法令、諸規則、各種規程、倫理および社会規範などを遵守し、社会的評価、信頼を得て活動を行っていくために、農環研におけるコンプライアンスの推進に必要な事項を「コンプライアンス推進規程」として定めています。また、この方針を適正に執行するためのコンプライアンス推進体制を整備しています。組織内における不正に対して、内部通報者、被通報者のプライバシーなどの不利益が発生することを防止するための規程も定めています。



コンプライアンス推進体制

コンプライアンスに関する啓発活動

農環研の「基本理念」、「行動憲章」、「環境憲章」の周知を図るためのポスター等の作成、農環研の研究・業務に関連する法令等の「共用施設・機器等の利用、安全衛生各種事務手続マニュアル」への掲載など、コンプライアンスに関する啓発活動に取り組んでいます。2013年度は管理職を対象にハラスメントに関するアンケート調査、所議メンバーを中心としたハラスメントに関する研修、各室等にハラスメント防止のための資料配布、意識啓発活動等を継続的に実施し、未然防止対策を実施しました。

個人情報保護への取り組み状況

規程類を整備し、保有する個人情報の適切な管理に努めるとともに、農環研主催のシンポジウムなどの参加登録情報についても流用を禁止するとともに、漏えいしないよう適切に管理しています

情報セキュリティへの取り組み状況

農業環境技術研究所のネットワークは、農林水産省研究ネットワーク(MAFFIN)と接続され、その一部として運用されています。グローバルに情報収集・情報発信を行う研究所として、情報セキュリティの確保はきわめて重要です。そのために当研究所では研究情報システム管理室を設置するとともに、「独立行政法人農業環境技術研究所情報セキュリティポリシー」の元、「政府機関の情報セキュリティ対策のための統一基準」に準じた規程等を定め情報セキュリティの確保に努めています。

情報システムにおけるセキュリティの確保には、ハード面での対策を取ことはもちろんですが、ソフト面の対策としてネットワーク新規利用者に対する講習や全利用者を対象としたセキュリティ講習会を毎年義務付けるなど、職員のセキュリティ意識の向上にも努めています。

